

## 安全データシート (SDS)

---

**1 化学品及び会社情報**

---

## 化学品の名称

製品名 マホータイ  
製品コード

## 供給者の会社名称、住所及び電話番号

会社名称 株式会社折原製作所  
担当部署  
住所 〒329-1332 栃木県さくら市浦須坂 280-2  
電話番号 028-682-0181  
Fax 番号 028-682-0185  
電子メールアドレス  
緊急連絡電話番号 028-682-0181

## 推奨用途

補修用

## 使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない

---

**2 危険有害性の要約**

---

## 化学品の GHS 分類

## 物理化学的危険性

分類できない

## 健康有害性

皮膚腐食性／刺激性 区分 2  
呼吸器感作性 区分 1  
皮膚感作性 区分 1  
発がん性 区分 2  
特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 2（呼吸器）

## 環境有害性

分類できない

## GHS ラベル要素

## 絵表示



**注意喚起語**  
**危険有害性情報**

危険  
皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ  
発がんのおそれの疑い  
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ

**注意書き**

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

[応急処置]

皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。  
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。  
無理に吐かせないこと。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。  
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。  
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[保管（貯蔵）]

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

**他の危険有害性**

情報なし

**重要な徴候及び想定される非常事態の概要**

皮膚刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ

発がんのおそれの疑い

長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ

### 3 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

混合物

#### 組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 登録番号	官報公示 整理番号 (化審法・安衛法)	濃度又は濃度範囲 (wt%) *
ガラス繊維	65997-17-3	-	60
ビス (4-イソシアナトフェニル) メタン・(グリセリンと 2-メチルオキシラン・オキシラン重合物のエーテル (1:3)) 重合体	59675-67-1	-	36
p-トルエンスルホニルイソシアネート	4083-64-1	3-2222	0.38
二酸化チタン	13463-67-7	1-558	1.5
その他の成分	-	-	2.12

\* 表記濃度は平均値

GHS 分類については、平均値を使用し検討している。

#### GHS 分類に寄与する成分

p-トルエンスルホニルイソシアネート、二酸化チタン

### 4 応急措置

#### ばく露経路による応急措置

吸入した場合

直ちにその場を換気すること。

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。

大量の水と石鹸で優しく洗うこと。その後、少なくとも 15 分間はすすぐこと。

症状が続く場合には、医師に連絡すること。

汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合

水で 15~20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

水で口をすすぐこと。

嘔吐させないこと。直ちに医師の診断を受けること。

#### 急性症状の最も重要な徴候症状

吸入した場合：吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ

皮膚に付着した場合：アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ、皮膚刺激。

赤み、痛み、腫れ、痒み、熱感、乾燥、皮膚炎。

眼に入った場合：眼に炎症を引き起こす可能性がある。

飲み込んだ場合：飲み込んだ際、気道に入ると致命的なおそれの可能性、肺に入ると重篤な肺

水腫または肺出血を引き起こす可能性がある。

### 遅発性症状の最も重要な徴候症状

過去に過度のばく露を繰り返したまたは一度の大量投与した結果、TLV を大幅に下回るレベルのイソシアネートに対して症状を発症する患者がいた。これらの症状には、胸の圧迫感、喘鳴、咳、息切れ、喘息発作などがあり、多くの非特異的な喘息反応と同様に、ばく露後すぐ、または数時間以内に発生する可能性がある。

一度感作された人は、ほこりや冷たい空気、その他の刺激物にさらされると、これらの症状を引き起こすという報告もある。

この肺の感受性の高まりは数週間、ひどい場合には数年間持続することがある。

また、イソシアネートの過度なばく露により、肺に障害が発生し、永久的に残る可能性があるとして報告されている。なお、感作性には、一時的なものと同様に永続的なものがある。

### 応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

### 医師に対する特別な注意事項

気分が悪い時は、医師の診断を受ける（可能であればラベルを見せること）。

---

## 5 火災時の措置

---

### 適切な消火剤

周辺火災に応じて水噴霧、霧、粉末消火剤、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

### 使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

### 火災時の特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物（一酸化炭素、窒素酸化物、微量の HCN、MDI 蒸気またはエアロゾル）が発生する可能性がある。

### 特有の消火方法

消火活動は風上から行う。

火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

---

## 6 漏出時の措置

---

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

危険でない場合は、漏れを止めること。

着火源を除去すること。

換気を行うこと。

### 環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。  
消火廃水が環境に流出しないようにすること。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

樹脂が、布地に練りこまれているため大量に流出することはない。  
飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。  
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

### 二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

---

## 7 取扱い及び保管上の注意

---

### 取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 粉じんを発生させないようにする。
接触回避 衛生対策	発火源、直射日光、熱源、極端に高い又は低い温度。 手及び露出部分を中性石鹼及び水洗うこと。 製品使用中に飲食及び喫煙をしないこと。

### 保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。
混触禁止物質	水、アミン、強塩基、アルコール類は、銅合金やアルミニウムを腐食させることがある。
保管条件	乾燥した涼しく換気の良い場所に保管する。 湿気による汚染を防ぐため、付属のホイールパウチに入れて保管する。 直射日光、極端な高温または低温、および混触禁止物質から離して保管すること。 保管温度：18～30℃ 最大保管期限：24ヶ月
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

---

## 8 ばく露防止及び保護措置

---

### 管理濃度

設定されていない

**許容濃度**

ACGIH TLV-TWA (2022)	データあり（ガラス繊維、二酸化チタン）
ACGIH TLV-STEL (2022)	設定されていない
日本産業衛生学会（2021）	1（繊維/mL）（ガラス繊維） 0.3 mg/m <sup>3</sup> （二酸化チタン、ナノ粒子として）

**設備対策**

十分な換気を行うこと。  
ばく露の可能性のある場所のすぐ近くに、緊急用洗眼器と安全シャワーを設置すること。

**保護具**

呼吸用保護具	必要に応じて有機ガス用防毒マスクを着用する。密閉された場合には、送気マスクを着用すること。
手の保護具	耐薬品性の保護手袋（ニトリルゴム製、ブチルゴム製等の不浸透性素材のもの）を着用すること。
眼及び/又は顔面の保護具	化学薬品の飛沫用の安全メガネ、密閉型ゴーグルを使用すること。
皮膚及び身体の保護具	使い捨て作業用胸当てズボン、スパッツ、安全エプロン、を使用すること。

**特別な注意事項**

情報なし

**9 物理的及び化学的性質**

物理状態	固体（ガラス繊維布に液状樹脂を含浸させたもの）
色	白色
臭い	若干のカビ臭
融点／凝固点	凝固点：0°C
沸点又は初留点及び沸点範囲	沸点：207.78°C（5 mmHg）（MDI として）
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	該当しない
引火点	198.89°C
自然発火点	該当しない
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	粘度：1,300～9,000 CPS
溶解度	水：不溶 ゆっくりと反応し、二酸化炭素を放出する。
n-オクタノール／水分配係数（log値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	比重（水 = 1）：1.14
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	情報なし
その他のデータ	情報なし

## 10 安定性及び反応性

反応性	通常の取扱い条件下では安定である。
化学的安定性	通常取扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	イソシアネートと反応する水分または他の物質との接触、及び 204°C程度の温度で、何らかの重合が起こる可能性がある。
避けるべき条件	発火源、直射日光、熱源、極端に高い又は低い温度。
混触危険物質	水、アミン、強塩基、アルコール類は、銅合金やアルミニウムを腐食させることがある。
危険有害な分解生成物	熱分解時：一酸化炭素、窒素酸化物、微量のHCN、MDI蒸気またはエアロゾル

## 11 有害性情報

### 製品の有害性情報

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ 皮膚感作性：アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

### 成分の有害性情報

#### ガラス繊維

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：情報なし 皮膚感作性：情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## ビス(4-イソシアナトフェニル)メタン・(グリセリンと2-メチルオキシラン・オキシラン重合物のエーテル(1:3))重合物

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性/刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ 皮膚感作性：アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## p-トルエンスルホニルイソシアネート

急性毒性	情報なし
皮膚腐食性/刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ 皮膚感作性：アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

## 二酸化チタン

急性毒性（経口）	区分に該当しない 本分類には酸化チタンの情報のうち、ナノ粒子と明記されたデータを除いた情報を用いて分類を行った。 ラット LD <sub>50</sub> > 2,000 mg/kg ラット LD <sub>50</sub> > 5,000 mg/kg ラット LD <sub>50</sub> > 10,000 mg/kg ラット LD <sub>50</sub> > 12,000 mg/kg ラット LD <sub>50</sub> > 20,000 mg/kg
急性毒性（経皮）	区分に該当しない ハムスターLD <sub>50</sub> > 10,000 mg/kg
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない GHS の定義における固体である。
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない GHS の定義における固体である。



急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	区分に該当しない ラット LC <sub>50</sub> > 5.09 mg/L ラット LC <sub>50</sub> > 3.43 mg/L
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、わずかな刺激性や刺激性なしとの記載より、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない ウサギを用いた眼刺激性試験（OECD TG 405）で、適用 24 時間後に 3 例中 2 例に軽度の結膜潮紅が認められたが、48 時間以内に消失したとの報告や、適用 24 時間後にわずかな刺激性が認められたが、48 及び 72 時間後には刺激が認められなかったとの報告がある。これらの試験で認められた刺激は、物理的な刺激によるものとも考えられたが、粒子形状を確認できなかったため分類できないとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性：データ不足のため分類できない。 皮膚感作性：区分に該当しない モルモットを用いた皮膚感作性試験（ビューラー法、OECD TG 406）及びマウスを用いた皮膚感作性試験（LLNA 法、OECD TG 429）はいずれも陰性であり、本物質には皮膚感作性はないと判断されていることから、区分該当しないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない <i>in vivo</i> では、マウスの末梢赤血球、骨髄細胞を用いる小核試験で陰性、ラットの肺胞細胞を用いる <i>hprt</i> 遺伝子突然変異試験で陽性、マウスの骨髄細胞を用いる染色体異常試験、ラットの肺を用いる DNA 損傷試験で陰性の報告がある。 <i>in vitro</i> では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の小核試験、染色体異常試験、マウスリンフォーマ試験でいずれも陰性の結果が報告されている。また、 <i>in vivo</i> の陽性知見は標準的な試験によるものではなく、本物質が遺伝毒性を有するとは結論できないと評価している。以上より、分類できないとした。
発がん性	区分 2 欧州での大規模コホート研究において、本物質への職業ばく露により肺がんのリスクの軽度増加が示唆されたが、ばく露群において用量-反応関係がみられなかった、その他、北米でのコホート研究及び症例対照研究では本物質ばく露と発がんとの関連性は示されず、ヒトでの発がん性の証拠は限定的とされた。実験動物ではラットに 2 年間吸入ばく露した 1 つの試験において、高濃度群（250 mg/m <sup>3</sup> ）で肺の腺腫及び扁平上皮がんの頻度の増加がみられた。また、本物質の超微細粒子（P25）をラットに 2 年間吸入ばく露した試験でも、ばく露群では肺腫瘍（良性扁平上皮腫瘍、扁平上皮がん、腺腫、腺がん）の発生頻度の増加（32/100 vs 対照群 1/271）がみられたが、マウスの試験では腫瘍発生の増加がみられなかった。この他、酸化チタンをラットに気管内注入した試験で良性

及び悪性の肺腫瘍の頻度増加が認められた。他方、ラット、マウスに経口、皮下、腹腔内投与したいずれの試験においても、腫瘍の増加はみられなかった。以上より、IARCは実験動物では発がん性の十分な証拠があるとして、グループ2Bに分類した。この他、日本産業衛生学会が暫定的分類として第2群Bに分類している。よって、本項は区分2とした。

#### 生殖毒性

分類できない

ラットを用いた簡易生殖毒性試験 (OECD TG 421) において、1,000 mg/kg/day の用量まで強制経口投与しても親動物の生殖能及び児動物の生存、生後4日までの発育に有害な影響はみられなかった。しかし、本試験はスクリーニング試験のため、この結果のみでは区分外とできず、この他分類に利用可能なデータがなく、データ不足のため分類できない。

#### 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

データ不足のため分類できない。

#### 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

区分1 (呼吸器)

ヒトに関する情報はない。

実験動物では、ラットを用いた2年間吸入毒性試験において、区分1の範囲である10 mg/m<sup>3</sup>で白血球数・好中球数の増加、肺炎、気管炎、鼻腔前半部の扁平上皮化生を伴う鼻炎の増加、ラットを用いた24ヵ月吸入毒性試験において5 mg/m<sup>3</sup>で肺の線維化、気管支肺胞洗浄液 (BALF) における細胞学的パターンのわずかな変化、多形核白血球数のわずかな増加、マクロファージの増加、肺に関連したリンパ節の過形成が認められている。なお、経口経路では、ラット、マウスを用いた混餌投与による13週間あるいは103週間反復投与毒性試験において区分外に相当する用量でも影響はみられていない。したがって、区分1 (呼吸器) とした。

#### 誤えん有害性

データ不足のため分類できない。

#### その他の成分

##### 急性毒性

情報なし

##### 皮膚腐食性/刺激性

情報なし

##### 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

情報なし

##### 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性：情報なし

皮膚感作性：情報なし

##### 生殖細胞変異原性

情報なし

##### 発がん性

情報なし

##### 生殖毒性

情報なし

##### 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

情報なし

##### 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

情報なし

##### 誤えん有害性

情報なし

## 12 環境影響情報

### 製品の環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 水生生物に有害 水生環境有害性 長期（慢性） 水生生物に長期的な有害性をもたらすおそれがある。
残留性・分解性	長期的な悪影響を及ぼす可能性がある。
生物蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

### 成分の環境影響情報

#### ガラス繊維

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 情報なし 水生環境有害性 長期（慢性） 情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

ビス（4-イソシアナトフェニル）メタン・（グリセリンと 2-メチルオキシラン・オキシラン重合物のエーテル（1：3）重合物

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 情報なし 水生環境有害性 長期（慢性） 情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

#### p-トルエンスルホニルイソシアネート

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 情報なし 水生環境有害性 長期（慢性） 情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

**二酸化チタン**

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性）区分に該当しない 藻類 ( <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> ) 72 時間 EL <sub>50</sub> (growth rate) > 100 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EL <sub>50</sub> > 100 mg/L、魚類（メダカ）96 時間 LL <sub>50</sub> > 100 mg/L であることから、区分に該当しないとした。 水生環境有害性 長期（慢性）区分 4 信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性で（水に不溶）、急性毒性は区分に該当しないではあるが、無機化合物で環境中の挙動が不明であることから区分 4 とした。
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

**その他の成分**

生態毒性	水生環境有害性 短期（急性） 情報なし 水生環境有害性 長期（慢性） 情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性	情報なし
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

**13 廃棄上の注意****化学品汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
残余廃棄物**

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

**汚染容器及び包装**

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

**14 輸送上の注意****国際規制**

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない

容器等級	該当しない
海上輸送（IMOの規定に従う）	
国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない
航空輸送（ICAO/IATAの規定に従う）	
国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
副次危険性	該当しない
容器等級	該当しない

**海洋汚染物質**

非該当

**MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質**

非該当

**輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：**

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

**国内規制**

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

**15 適用法令****該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報**

化学物質排出把握管理促進法	該当しない
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（酸化チタン（IV）） 0.1重量%以上を含有する製剤その他の物 名称等を表示すべき危険物及び有害物（酸化チタン（IV）） 1重量%以上を含有する製剤その他の物。運搬・貯蔵中に固体以外の状態にならず、かつ、粉状にならない物であって、令別表第一に掲げる危険物、可燃性の物等爆発又は火災の原因となるおそれのある物並びに皮膚に対して腐食の危険を生じるものでないものを除く。
毒物及び劇物取締法	該当しない

**その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報**

海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質）（酸化チタン）
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（有機硫黄化合物）

じん肺法

輸出貿易管理令別表第1の16の項（チタンの酸化物）  
法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業（酸化チタン）  
粉じん

---

## 16 その他の情報

---

### 参考文献

株式会社折原製作所提供資料

NITE GHS 分類結果一覧（2022）

日本産業衛生学会（2021）許容濃度等の勧告

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2022) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2019 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。